

社会福祉法人中央会 平成27年度事業報告

【施設方針】

施設理念「家のぬくもり、家族のつながり、地域のつながりのある暮らし」の実現に取り組む。

【行動方針】

1. 5事業所（特養・ショート・デイサービス・小規模多機能・グループホーム）同士の連携した運営

特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護に認知症対応型共同生活介護が加わり、同一敷地内に地域密着型サービスが3事業になった一年間だった。地域包括ケアシステムを意識し、高齢者がその地域で生活し地域内で継続した支援が受けられるように運営してきた。おかげで多くの地域高齢者の方々にデイサービス・ショートステイ・小規模多機能を利用して頂いている。そしてその利用者様の多くを特養・グループホームに受け入れることができた。利用者様、家族様と馴染みの関係を継続しながら切れ目のないサービスを提供できている。

事業所間の連携では特養・グループホームの空床利用の有効活用において迅速な対応ができるようになってきた。

2. 金沢有松病院と5事業所との連携した運営

金沢有松病院を中心に病院から退院後直接、ショートステイや小規模多機能の利用が増えてきている。受け持ちケアマネからの情報だけでは不十分な場合もあり、事前に病院との連携も行い入居者様が安全に安心して過ごせるための準備を行う必要性は増している。

3. 介護マンパワーの確保

介護補助者、看護学生のアルバイトの導入をおこない食事配膳やシーツ交換等の業務をカバーしてもらうことができた。今後も積極的に採用していく。退職者の補充が間に合わない場合もあり派遣職員採用もあった。

職員確保のためのホームページのリニューアルは、問い合わせが増え採用につながり効果があった。

4. 研修体制の充実

- ① 職員育成プログラムを初級・中級・上級の3段階から5段階へ変更し、より実践的なレベルチェックを行うようにした。
- ② チューター職員育成のため新人指導の方法などを話し合うミーティングを開催した。
- ③ 研修自主参加を促すため、施設内研修12回のうち外部講師を取り入れた研修を6回

実施している。参加人数は平成26年度23.5人/回から平成27年度は25人/回に増えている。

- ④ 中堅職員研修は対象者が終了した。接遇研修は平成28年度からはブラッシュアップ研修で継続していく。
- ⑤ 施設外研修延べ人数118人が参加した。自主参加を期待したが、自己研鑽の意識は個人差が大きい。

5. ほのぼの記録システムの有効活用

事務連絡の施設内情報共有、ケアプランの事業所内共有について改善がみられた。各職員がほのぼのシステムで情報を自主的に得る姿勢は見られた。申し送りや記録時間短縮にもつながってきた。

6. 地域交流の推進

- ① 特養では近隣在住者の場合、入居判定基準の配点を高くしており、利用者様・家族様・ボランティア様同士顔見知りが多い。そのため要支援、要介護状態になったことで途切れていた地域とのコミュニケーションが施設の中で増えてきていることは良かった。
- ② 米泉ボランティア会と話し合いを行い活動内容の見直しを行った。参加しやすいおやつ作り等のメニューを取り入れ、事前に年間スケジュールを提出している。今後も定期的に話し合う機会をもち訪問しやすい環境を整えていく。
- ③ 自立歩行のできる要支援者を対象に、介護保険を使わない公益的な事業として月2回の『お気楽教室』を開催した。ロコモトレーニング、外出などの活動による介護予防と楽しい時間を過ごすことを目的としている。好評のため対象を地域高齢者に広げたいのだが、職員確保が難しい状況である。
- ④ 清泉中学、金沢大学附属中学の職場体験を受け入れた。米泉小学校4年生の慰問、福祉体験の受け入れと米泉小学校運動会の招待の交流は続いている。
- ⑤ 運営推進会議で町会副会長さんから地域行事の情報を頂き、地区文化祭などに参加している。その際には駐車場を用意して頂くなど良い関係を築くことができた。

7. 経営基盤の強化と確立

【事業別活動状況】

事業所（定員）	人数	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
特養 （定員 29 人）	入居者延べ数／年	9762	9600	10009	9812	10184
	平均入居者数／日	26.7	26.3	27.4	26.8	27.8
	稼働率	92%	91%	94%	93%	96%
ショート （定員 20 人）	利用者延べ数／年	6682	7099	7315	7381	7213
	平均利用者数／日	18.2	19.5	20	20	19.8
	稼働率	92%	97%	100%	101%	99%
デイ サービス （定員 35 人）	利用者延べ数／年	6680	7060	7452	8124	7256
	平均利用者数／日	21.2	22.8	23.9	26	23.2
	稼働率（750 人/月を 100%）	74%	78%	83%	90%	81%
小規模 （登録 25 人）	登録者延べ数／年	212	258	276	246	200
	平均登録者数	17.6	21.5	23	20.5	16.6
	稼働率	71%	86%	92%	82%	67%
収入小計		330,823,015	344,542,786	347,647,758	351,377,407	339,304,597
グループホーム （定員 18 人）	契約者延べ数／年				2439	6352
	平均入居者数／日				16.1	17.3
	稼働率				90%	96%
収入小計					41,516,312	81,323,513
収入合計		330,823,015	344,542,786	347,647,758	392,893,719	420,628,110

- ① 稼働率は、特養は増加した。看取りが増えたことが主な原因である。メディアで尊厳死を多く取りあげられた影響もあり看取りを希望する家族様が増えた。
- ② ショートステイは、ほぼ横ばい。
- ③ デイサービスは減少した。平成 27 年度後半から稼働率が 90%を超えたため、要支援者よりサービスの必要性の高い要介護者を優先する方針に変更した。しかし要介護利用者の増加が少なかったためである。
- ④ 小規模多機能は大幅に減少した。事業の認知度が低いこと、近隣で安価な有料老人ホームなどが多くでき在宅介護の希望者が減ってきていることが大きな原因である。
- ⑤ デイサービス、ショートステイ、小規模多機能の利用者がグループホーム、特養に入居になっていくため、絶えず新規利用者獲得を行わなければならない。しかし 3 事業所の利用者獲得が年々厳しくなっている。
- ⑥ 4 事業所では介護保険基本報酬減額による約 1700 万円の減収を予測していた。稼働率も下がった事業所もあったが加算による増収のため、1207 万円の減収でとどまった。

- ⑦ 全体の介護保険収入としてはグループホーム開設もあり2773万円増収となった。
- ⑧ 介護職員の基本給を10000円アップしていること、グループホーム開設のため職員数が増えたことにより人件費が3350万円増加した。
- ⑨ トータルとして、グループホームの収入が加わったものの、介護保険基本報酬が安くなったこと、稼働率低下した事業所があったこと、人件費支出が増えたことにより収支は厳しい結果となった。
- ⑩ 対策として、利用者を増やすため柔軟なサービス提供と地域へのアピール、居宅介護支援事業所との連携をさらに強化していかなければならない。また人件費はサービスに直結するため減らしたくないが、業務の革新、改善により効果的、効率的、適正な職員配置の措置が必要である。

8. 各事業所評価

【特別養護老人ホーム】

- ① 人が人を想う心を大切にする。職員、入居者様、家族様に笑顔で接し、つながりを深める
忙しさや疲れなどにより思いやりに欠ける言動が見られたこともあった。今一度「想う心」を大切にしたいケアを日々行っていく。目標継続にする。
- ② 職員全員が看取りケアを理解し、より一層知識向上に努め連携強化する
委員会を中心に職員の知識向上につながった。個人差はあるが実行できたと思われる。
- ③ 絶えず、入居者様にとっての視点を持つ
入居者様の視点に立った行動ではなく職員の思い込みによる行動が転倒・転落事故につながってしまった。来年度も目標継続する。

【ショートステイ】

- ② 職員個々が専門職のスキル向上とチームワークの充実を図る
職員それぞれ施設内研修、外部研修、委員会などに参加し知識は向上していると思う。
今後研修で学んだことを皆に伝える機会を持ち全員のスキルアップを図っていきたい。
- ② 担当職員が短期入所計画書を立案し、個別ケア実践に努める
定期利用の利用者様中心に担当職員が短期入所計画書を作成し毎月評価できた。個別ケアの内容についてはまだ不十分だったので、目標継続する
- ③ 利用者様、家族様の立場に立っての視点を持ち、信頼関係を構築していく
送迎や電話対応、面会等の機会を利用して積極的に信頼関係を築くように心がけた。
今後は職員も相談員とともに担当者会議に参加し家族様の思いを聴き取りケアに生かしていく。
- ④ 利用者様のそばに行き関わる
関わりの少なかった職員個々が目標を考え、他の職員も共有することで利用者様との関わりが少しずつ増えた。

【小規模多機能】

① 利用者様と一緒に笑おう！

新規の利用者様が増えると、対応に慣れることに必死になり余裕がなくなり利用者様の隣に座ってゆっくり会話する機会が減ってしまうことがあった。

② 利用者様の心になって考えよう、利用者様の小さな変化にも気付く視線を持とう

利用者様を良く見ることによって、以前より変化に気が付くようになった。今後も小さな変化にも早く気づき寄り添うケアを行う。

③ 職員間の明るい雰囲気づくりに努めよう

気持ちに余裕がなかったり、体調管理が十分でなかったことがあった。ケアが優先し「家」ではなく施設という雰囲気になってしまうことがあった。

【デイサービス】

① 接遇力向上のため継続した意識付け

利用者様に対して普段は「です」「ます」を心がけているが、会話が盛り上がってくるとついフレンドリーな言葉使いになってしまい徹底できなかつた。今後も「です」「ます」を意識した接遇を行う。

② 利用者様が元気に楽しく満足して頂けるデイサービスづくり

利用者様に楽しんで頂ける企画が少なかった。作品作りも少なく外出は花見・紅葉・バラ園のみで外部からのボランティアや施設内行事に頼っていた。今後はスタッフ全員から企画を募り利用者様に喜んで頂けるデイサービスをつくっていく。

【グループホーム】

① 入居者様一人ひとりに合ったケアを行い、ゆっくり、優しく、楽しく、笑顔で接する

フロアに職員1人対応の時間もありバタバタしてしまうことがあった。ケアにあたり職員の連携不足が見られた。

② 入居者様の希望を一緒に叶える、できないだろうではなくまずやってみる

入居者様の思いを聴き実現することができたが、思いを話せない方については足りない面があったと思われた。

③ ケアプランの実践

ケアプランを実践するように努力できたが、記録に残すことが少なかった。

【看護部】

① 情報を共有し統一した看護を提供する

申し送りノートとほのぼののシステム内の申し送りを活用し連携を図ることができた。重要な事項は口頭でも伝えるようにした。

② 各部署のミーティングに参加し介護部との連携を密に図る

参加できた事業所ではケア状況などを把握することができた。また医療面での連携が

円滑にできた。

【栄養部】

- ① 利用者様の希望を取り入れながら身体の状態に合わせた食事を提供する

嗜好調査回答が困難な利用者様が増えており希望・意見が把握しにくくなった。より多くの意見を反映できるようにアンケート用紙の見直しと、厨房とフロアー間の連絡を密に行っていく。

- ② 安全安心かつ楽しく食べて頂ける食事を提供する

食事内容に季節感、バラエティー感を出すことができた。また、セレクト食も定着してきた。今後もよりメニューの幅を広げられるように努力する。

9. 特別養護老人ホーム入退所（定員29名）

年度	区分 月	新規入所者				退所者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
平成27年度	4	1			1					1	1
	5			1	1		1				1
	6				0						0
	7	1	1	1	3					3	3
	8	1			1					1	1
	9		1		1		1				1
	10	2			2					2	2
	11	1			1					1	1
	12		1	1	2					2	2
	1	1			1		1				1
	2		1		1		1				1
	3			1	1					1	1
計	7	4	4	15		4			11	15	

10. 救急車搬送状況

年度	月	件数	部署	状況
平成27年度	4	1	特養	意識レベル低下
	5	2	特養 ショートステイ	けいれん発作 嘔吐 意識レベル低下
	8	1	特養	呼吸状態悪化 心不全
	10	1	デイサービス	意識消失
	11	1	特養	意識消失
	12	2	デイサービス 特養	意識消失 けいれん発作
	1	3	グループホーム 特養	呼吸状態悪化 脳梗塞 腸捻転
	2	1	ショートステイ	チアノーゼ
	3	4	グループホーム ショートステイ ショートステイ デイサービス	嘔吐・意識消失 嘔吐 意識消失 意識消失
	合計件数	16		

11. 事故発生状況（金沢市報告）

[H27年4月1日 ～ H28年3月31日]

部署	件数	状況	
特養	4	膀胱カテーテル抜去	体位交換でカテーテルを引っ張り抜去
		膀胱カテーテル抜去	車椅子移乗時部品に引っかかり抜去
		左大腿骨転子部骨折	居室で車椅子から自力でベッドに移ろうとしてずり落ちる
		左大腿骨転子部骨折	フロアで車椅子に座っていたが立ち上がり歩行し転倒
ショートステイ	2	離設	居室の窓から非常階段を下りて出たと思われる
		左鎖骨骨折	早朝訪室すると「首筋が痛い」と言われ発見、詳細不明
グループホーム	4	右大腿骨頸部骨折	右大腿と股関節の痛みの訴えあり発見、本人は転倒したと言われ、詳細不明
		離設	職員が目を離した間に勝手口から出て行かれた
		後頭部裂傷	自室からフロアへ移動中転倒しテレビラックに頭部をぶつけ裂傷
		右大腿骨転子部骨折	居室で洗面所からベッドへ移動中転倒し居室であおむけに倒れている状態で発見

12. 職員の採用・退職の状況

[H27年4月1日 ～ H28年3月31日]

職種別	施設長	事務員	直接処遇職員				栄養士	療養士	理学療法士	作業療法士	宿直	合計
			相談員	生活介護員	看護員	小計						
平成	採用			1	13 (14)	2 (1)	16 (15)					16 (15)
27	退職			3	5 (15)	1	9 (15)					9 (15)
年度	3月末職員数	1	2 (1)	6	48 (21)	7 (1)	61 (22)	1			(2)	65 (25)

()はパート等非常勤人数

13. 施設職員の研修状況

[H27年4月1日 ～ H28年3月31日]

	回数（延べ人数）	内容・状況
新人研修	2回（20人）	法令順守 メンタルヘルス 感染対策 腰痛予防等 OJT研修へ移行
職場外研修	57回（118人）	石川県社会福祉協議会 福祉総合研修センター等の研修会に参加
職場内研修	12回（276人）	緊急時対応 感染症実践対策 地域の社会資源の把握及び連携 身体拘束排除 人権擁護 虐待防止 ターミナルケアと看取り介護 栄養管理と食事形態 誤嚥事故防止 クレーム対応力実践講習 個人情報保護対策 高齢者施設のリスクマネジメント 記録について
外部講師研修会	17回（248人）	中堅職員研修 緊急時の対応 リスクマネジメント